

第3回練馬区自殺対策推進会議 会議要録

1 日時	平成 31 年 1 月 31 日（木） 午前 9 時 30 分～11 時 30 分
2 場所	練馬区役所本庁舎 1902 会議室
3 出席者	<p>< 委員 > 大塚委員、西村委員、小林委員、木崎委員、佐藤（修）委員、神野委員、西委員、村元委員、谷田委員、相馬委員、中村委員、佐藤（稔）委員、菊原委員、幸田委員、寺町委員</p> <p>< 事務局 > 健康部長、保健所長、保健予防課長、石神井保健相談所長、関保健相談所長、精神保健係長、精神支援担当係長、石神井保健相談所地域保健係長、関保健相談所地域保健係長、</p>
4 公開の可否	公開
5 傍聴者	なし
6 次第	<p>1 開会 2 議題 (1) 「（仮称）練馬区自殺対策計画（素案）」に対する意見募集の結果について (2) 第2次みどりの風吹くまちビジョン【素案】について (3) スケジュール (4) その他 3 閉会</p>
7 資料	<p>（資料 1）（仮称）練馬区自殺対策計画（素案）に対する意見募集の結果について （資料 2） 第2次みどりの風吹くまちビジョン基本計画【素案】 （資料 3） 第2次みどりの風吹くまちビジョンアクションプラン（戦略計画）【素案】 （資料 4） スケジュール</p>
8 事務局	練馬区保健予防課 電話：03-5984-4764

会長

おはようございます。定刻になりましたので、ただいまから第3回練馬区自殺対策推進会議を開催したいと思います。今年度、これが最終回ということになります。

委員の皆様にはお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

では初めに、委員の出席状況、配付資料について、事務局から報告をお願いします。

事務局

本日、事前に欠席のご連絡をいただいておりますのは、本橋委員、眞々田委員、亀崎委員の3名です。

それでは、配付資料の確認をさせていただきます。資料1が練馬区の自殺対策計画の素案について、意見募集を行った結果です。資料2と資料3は、「みどりの風吹くまちビジョン」の基本計画とアクションプランです。資料4は、今後の自殺対策計画の策定スケジュールです。

机上に配付してあるのは、計画策定の概要版と現段階での対策計画の素案です。

会長

それでは、早速議題に入らせていただきます。まず議題1になりますが、仮称「練馬区自殺対策計画素案」に対する意見募集の結果について、資料の説明をお願いします。

事務局

資料1説明

会長

関係団体は、医師会、薬剤師会、精神障害者の家族会ということですが、「1月30日現在」とありますが、まだこれは作業中ですか。

事務局

家族会の開催の日程が、みんな一律というわけにいかないのもう1カ所あるということ、そこのご意見も伺えればと思っています。

会長

庁内は特に何かなかったですか。

事務局

庁内にも照会をかけておりますけれども、大体今までに調整して出てきた意見と同じような内容でした。

事務局

後ほどご説明いたしますが、この新しい「みどりの風吹くまちビジョン」というものに基づく取り組みというのもありまして、そちらにつきましてももう少し結果がこの中に反映できればと思っているところです。庁内への検討はこちらのご意見やいただいたご意見なども踏まえまして、具体的にこれからやっていきたいと思っています。

会長

パブコメが0件というのもちょっと何となく、皆さんがご納得されたのか、関心が薄かったのか、周知が弱かったのか、なかなか意見が出しにくかったのか。でも関係団体にお聞きいただいたということで、36件の意見が出たということですが、まずはその寄せられた意見につきまして委員の皆様、ご質問などありますか。

事務局

いただいたご意見に対して、今、1つ1つ考えているところですが、基本的にはいただいた貴重なご意見ですので、できる限り計画の中に取り込んでいきたいと考えています。

これは今までご説明したように、区役所全体の部署にわたる問題ですので、そういった関連の部署ともこれからこういったいただいたご意見をできるだけ実現していく方向で協議をすすめているところです。

会長

今日初めてこれをご覧になるかと思しますので、何かお気づきの点とか、ご意見がありましたら、ぜひ伺えますか。

皆さん、お考えの間に、1つは「ゲートキーパー」という日本語に直すと難しい用語です。そのまま「門番」と直したところでやはり通じないと思います。自殺対策のところを使うときのゲートキーパーの意味として、サインに気がつくとか、お話を伺うとか、支援者につなげるということで、養成講座などでは説明があると思いますが、初回に出てきたときに説明いただくというのがいいかなと思いました。

それから24のところの「遺族の家族会」は、当事者の方たちがお集まりになるのですが、練馬にあるわけではなかったですね。

事務局

これはたしかお寺さんでそういうことをやっていただいて、僧侶の方にお経を読んでいただくのです。そういうことをしてもらって、心がすごくいやされたということでしたので、民間でやっていただいているものに関しても、そういう場があるということをお知ら

せできるといいなと思います。

なかなか区の立場でできること、できないことがあると思うので、ここは民間のお力もちょっとずつ借りてやらせていただければなと思います。

会長

検討していたときには、制度とか機関の紹介とか、今後の施策をということになっているのですが、今みたいなものを当事者の方たちはお求めだと思います。

この計画の中にそういうものを入れることができるのかわかりませんが、よくコラムみたいなものが入っているものがあります。ちょっとしたコラムとかエッセイとか、体験とかというのがあって、そこにつながっていくみたいなことがあってもいいのかなとこれを読んで思ったのですけれども、この計画への反映の仕方は難しいのかもしれない。

委員

区民の方がいろいろ考えて書いてくれたのが多分多いと思うので、これを1つ1つ具体的に策を練っていけば、いい方向に行くのかなと思います。

会長

抽象的な計画の具体策は何だということにつながるといういいことですね。

委員

19番の「精神障害をもつ子を抱えている親も自殺予備軍である」と、何か限定づけたような言い回しではないですか。そうすると障害者の親または家族は、みんな予備軍みたいなふうに私はとれるのですけれども、これはよろしいのでしょうか。

会長

計画の中の反映の仕方だと思うのですが、自殺をされてしまった方の周辺にはハイリスク者がいるということと言われています。断定せず、でも危険度が高いということが分かればいいですね。

事務局

計画に反映するときに、できるだけそのままの言葉を載せられればいいのですが、趣旨を損なわない程度に計画に合うような文章を考えたいと思います。

事務局

当事者だけでなく、その周辺の方の支援をやっていかなければいけないということだと思いますので、そういったことを念頭におきながら、私たち行政側もスキルを高めていくとか、感度を研ぎ澄ましていくとか、そういうことをやらなければいけないのかなというの

を改めて感じました。

委員

資料1の7番なのですけれども、ゲートキーパーについていくつかこの1ページ、2ページに質問があります。「ゲートキーパー講座の日時や内容を広報しているのか」というのは、実際のところどうなのかというのと、実際これを関係団体への説明会等では既にお答えしているのでしょうか。

事務局

ゲートキーパー講座を開催するときは、必ず区報とホームページで周知することを基本にしています。今までですと、区報かホームページで周知すれば、大体区報を見る世代、それからホームページを見る世代に分かれていて、それで大体全部をカバーできていました。さらに区報、ホームページを見ない世代というのも出てきていますので、より広く区民の方に周知を行う方法で考えていきたいと思えます。

事務局

このことに限らず、普通の区がやっていることについて、知られていないというのはあります。いろいろな媒体でお知らせはしているつもりなのですが、それが実際に必要な人に届いていないとか、「こういう情報があるなら知りたかった」という方のところへなかなか届いていないというところがありまして、どうしたらいいものだろうと非常に苦慮しているところです。

会長

ゲートキーパー養成講座をやっていますとかやりますということの周知・広報もとても大事だと思うのですが、どなたがゲートキーパーになられているかということが分からない。例えば参加される方たちの中には自殺対策に関することを知って、自分自身の生きる支えにするとか、いろいろ理解できてよかったというところでとどまる方もいらっしゃると思えます。

一方で認知症のサポーターのように、まちで徘徊されている方を見つけたときに、「研修を受けたので、お助けします」というふうに支援者になるという方もいらっしゃると思えます。ゲートキーパーをせっかく養成したのに活躍できないということになったらもったいないなと思うので、何らかのつなぎの場、そういうものがあるといいなと思えます。

事務局

例えばオレンジリボンとかピンクリボンというのは、全国的に広まっているので認知度

が高いと思うのですが、ゲートキーパー講座をとるのが知られていないので、どちらが先かというお話になるのですが、マークをつくったら知られているというふうにもなかなかなりにくい。やはり薬剤師さんは、非常にタッチをする機会の多い方々なので、例えば薬局に、ここにはゲートキーパー講座の終了証がありますとか、そういうのを掲示していただいたりするのはいいのではないかと思います。民生委員さんはそもそもそういう役割を担っていただいている、自殺に限らずさまざまな相談を受けとめていただいています。それぞれの方の立場とか役割によって、そういったものをしていただいたほうがいい方と、個人として参加されて、それを周りの人にオープンにするのもどうかなという方もいらっしゃると思いますので、その方々の立場とか、職種などによってもかえられるのかなと思いました。

委員

自殺する前に内科に受診してから自殺するという人が多いというデータもあるので、処方箋なんかもらいに行って、薬局へ行ったときには良いと思います。

委員

ゲートキーパー講座を受けたら、私が話をしますというようなものではありません。研修の生かし方というのは本当にみんなそれぞれで、1つは「じゃあ、私聞きますよ」と言っておせっかいをすることで、周りも戸惑ってしまうような場合も起こってしまうので、そういうふうにならないようにというのは、1つ気をつけていることかなと思います。

だけどせっかく受けたのだから、受けたよというような印がほしいという方は結構いらっしゃると思っています。ほかの自治体の例では、缶バッジみたいなのを配布したりしています。

そういう意味では、ゲートキーパー研修を一般市民にというのは、時間的にかかると思いますし、趣旨が伝わるのは一回二回では難しいとは思っています。どちらかという、薬剤師さんですとか、そういう支援にかかわる素地のある方にまずは受けていただいて、少しずつ広げていくということも大事なかなと思います。周知の仕方などいろいろな工夫があると思うのですが、関係機関によりたくさん広報しているところのほうが受講率は高いかなとは感じています。

第1段階としては関係機関とか、自分たちの足元から普及していくというのがいいのかなと思います。それが進むともっと一般市民に広げやすくなるかなと。

事務局

薬剤師さんとかはもともとゲートキーパー講座の周知にご協力いただいています。例えば高齢者関係の方は、特に高齢者の方に特化したような内容だとか、薬剤師さんだったら薬剤師さんに焦点を当てたような内容だとかというふうに、立場の方ごとのゲートキーパー研修をできるといいのかなと思っています。

会長

そういうがあると、より自分のことというふうに思ってもらえるのかなと思います。

何人かの皆様からご意見が出ていますが、関係機関や区民の皆様から寄せられた意見にかかわらず、改めてこの素案について、皆様の団体でもご報告や検討はされてきているかもしれませんので、そこも含めてご意見いただけたらと思います。

委員

多分病院で見る人というのは、最後の最後なので体調がとても悪い人が多いのだろうなと思っています。そういう人が民生委員さんに相談するだろうかという、難しいのだろうなと思ってしまうのです。極力自分とかかわりのある人には言いたくないでしょう。だからそういう意味では、支援している人たちがそういうのをトレーニングするのだろうなと思います。

「何かこの人、心配なのだけど」というレベルの声をどう拾うかというのが難しいのだろうなと思います。何かそこで「うちの家族がこうなのだけど」という人が、すごく気軽に相談できるような場所ってどこなのだろうなと、今伺いながらちょっと思っていました。

委員

自殺という行為に至るのは、いきなりなるわけではなくて、いろいろな要因がある中でそこに至るのだろうなと思います。

私たちもいろいろな相談を受けている中で、生活にお困りの方であったり仕事のこと、お金がなかったり家族関係もうまくいかないなど、いろいろな要因がある中で、そこをどう受けとめて、寄り添っていくことができるかが大切だと思います。相談というところまでやっていけると良い。相談に来られる方はまだいいと思います。相談に来られない方々もたくさんいて、そこをどう受けとめていけるのかということも大事なかなと思っています。

困ったときに話せる人がいるとか孤立しないとか、ちょっと気軽に相談できる、話せる関係とか、地域づくりをどうしていくのかというのは、そこはそこで考えていくことが自殺の対策とか予防につながっていくのだろうと思います。そこにかかわっていくのが社協

であり、地域づくりという視点は大事なところなので、地域のなかでのつながりづくりやネットワークづくりをしていくことが予防につながると考えています。

会長

多分素案でいうと、18ページの関係機関、専門職というところですので、19ページの「区民を対象とした」というあたりとかに今の委員のお話とか、そのあとの20、21、22、23という、居場所の問題とかのあたりでも入ってくるかと思います。委員がおっしゃっていたようなこととか、気軽に相談できるとか、地域づくりであるとかが入ってもいいのかもしれないなと思っています。

委員

今回、区民の方からの意見はたしかになかったというところで、デリケートな問題もあるので、その辺は難しかったのかなと思ったのですが、各団体からのお話が具体的でなるほどこういったことかなと思っています。やはり1つの問題だけを抱えていることでは決してないというのをいつも思っていて、実際介護されている方とお話をしますと、そのときには認知症の方だったりとか、身体障害の方だったりということもあるけど、そこに経済的な問題も入ってきているという場合があります。1個1個やっていたら縦割りになるのではないかというご意見なのだけでも、ちょっと私もそれは思っていて、ただ他の課の方とも今後お話をずっと続けていくということなので、それは非常に重要かなと思っています。

あとゲートキーパーに関しては、私は受けたことがあり内容的なものがみんな一律な内容なので、受講される対象者ごとに変えても良いなと思って聞いておりました。

介護職の方々にも率先、優先してというお話もあったので、実際にお家の中に入られるヘルパーさんとか、ケアマネジャーさんとかという内容でやっていただければ、もっと分かりやすくなるのではないかなと思いました。

会長

以前の現状説明を見たのですが、25ページの重点施策のところにもリードを入れていただいたのですが、ご意見が出たところもありますので、やはりそれぞれの分野ごとに深めていきますと捉えられることが多分多くて、専門・分化しているのではないかということだと思います。それだけ重点施策の課題の人たちは、やはり複合的な課題も多いので、恐らく深めていけば深めていくほど、連携しなければいけない課題がいっぱい出てくるのだということがうまく伝わるような表現のほうがいいかなというのがあります。

委員

先ほどのゲートキーパーのことで、情報の周知についての話があったのですが、ゲートキーパーに限らず、やはり情報の周知というのが難しいかなとは思っています。PTAをやっているのですが、その人たちに「ゲートキーパーを知っている？」と聞いても、知らない人が全員でした。

例えば新聞をとっている家庭というのも、10人中3人ぐらいです。そうすると、区報が家に配達されるということ自体がないような状態です。だからといって、ホームページを見るかという、何か気になっているときにはちょっと見ると思うのですが、ホームページを定期的に見る人は多分ほとんどいないと感じます。

そう考えると、一般の人で、こういうことに特にかかわりのない人たちがどのようにして情報を得るのかということに関して、どうしたらいいのかなというのを今、ちょっと考えているところです。

会長

練馬は学校に家庭数で配るビラとか、そういう講演会のお知らせとかというのは入らないですか。例えばゲートキーパー研修とか、家庭健康講座などのチラシが学校から来るなどはないですか。

委員

そういういろいろな講座が載っているこのような冊子が月に1回くらい、PTAに1部届くだけです。

事務局

学校配付しているものもあるのですが、それは子どもさん向けのものです。学校で全児童に配っているのは子どもさん向け、それから保護者の方向けで、特に必要性が高いものというか、そういうものは入れていただいています。

例えば、学校応援団という子どもたちの放課後の遊び場というのをやっていただいている方向けの通知に、何かこういうのもありますよというのが良いのではと思います。なかなか押しなべて全員の方というのは、今は難しい時代だなと思います。

会長

情報時代に情報の周知が非常に難しいということですね。

委員

皆様のご意見と重なる部分もあるのですが、子どものいじめというところがメイン

になってくるのではないかなと思っています。いじめや児童虐待というところが小・中学生の子を持つ親としての一番の問題部分ではないかなと思っています。やはり児童相談所との連携というのがより不可欠になります。

どういう形でどうすることがベストなのかということは、今ここではちょっとすぐには分かりませんが、この強化というのは必要であるのかなと思います。

また、年代によって自殺をする要因、原因というのは違うので、一律に押しなべて同じような講座をすることはあまり意味がないのではないかなというところではあります。

何よりも親が「うちの子に限って」とか、他人事のように思ってしまうことが一番怖くて、いじめられている現状であるとか親の気づきみたいなものを、保護者の立場の教育も必要です。また、いじめられる子、自殺をしてしまう子というのは、内向的な子が概して多いとするならば、「気軽に相談してね」と言ってもなかなかできないのが現状であります。もっと相談しやすい環境を整えるということも非常に大事だなと思います。

委員

皆様のいろいろなご意見をお伺いした中で、鉄道事業者としては、自殺防止ということになると難しいかなというのが率直な感想です。

今、交通弱者である目の不自由なお客様ですとか、車椅子等のお客様のバリアフリーといったところを意識している中で、なかなかこういう自殺といった視点で対応していないかなと思います。

自殺防止のキャンペーンということで駅構内を使うということに関しては、積極的に協力していきたいと思っています。

委員

いろいろな関係機関にご協力いただいて、学校、自治体などいろいろなところでキャンペーンとして防犯講話を行っています。そういった会議の中で、話せる会議だったらできるだけ話させていただいていきたいと思うのが現状です。

自殺件数が多いということは、それだけの対策を講じなければ、絶対に解決策が見出せないと思います。若い方も結構自殺未遂されているし、亡くなられている方もいます。

委員

私も仕事柄、いろいろ相談を受けることがあるのですが、今までお話が出ていたように、原因や悩み事が1つではなく複数ということもあるので、総合相談窓口という誰でも相談ができるというところをまず1つ作っておくのも有効かなと思います。

あともう1つは、19のところというのが、「自殺予備軍」という名前が出ているのですけども、この人たちというのは、どちらかという自分で判断をして、相談をするところもご自分で行けるという人たちなのかなと思うのです。20、21のところを見ると、相談先へつながることが難しいだとか、相談したいとは思わないというがあるので、この人たちをどう救うかというのが大事なのかなと思います。

匿名で相談できるだとか、メールだとか、そういう手段で相談できる場所があったほうが、最後にまた相談に行けるといふか、そういうのもできるのかなと思うので、対面ではなくてもいいので、何でもいから相談できるよというのを何か作るというか、できたらこういう人たちも救えるのかなというのをちょっと感じました。

委員

自殺を本当に心に決めてしまうと、もうそのままになってしまう。サインを出してくれるうちはいいのだけれども、そのサインをもう出さなくなってしまう。だから難しいですね。

委員

学校ではもちろん子どもたちに命の大切さとか、いじめはいけないとか、そういうことをかなり教えています。

その中でも子どもたちはいろいろな悩みや困り事があって教育相談室に来ています。教育相談室で相談することによって、死にたくなる気持ちが少しはおさまっているのかなと思いますけれども、まだまだ大変申し込みも多いです。

委員

いじめ関係の部署とか、虐待のこととか、たくさん書かれています。この自殺対策計画の中で30ページからいろいろな自殺のことが書かれています。

相談しにくいと言いつつSOSカードを出した子どもや電話を入れる子がいた。また、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー、心のふれあい相談員等も本当に利用を最大限しているという状況です。しかし、実際問題としては、人数とか時間とかがすごく短いので、特に心のふれあい相談員やスクールカウンセラーももうちょっとたくさん学校に来てほしいなというのがすごくあります。

スクールカウンセラーの方は、実際資格を持っている方なのですが、心のふれあい相談員の方はちょっとその辺がゆるいので、なかなか相談してもその辺が聞き流されてしまったりする厳しいところがあって、心のふれあい相談員に関しては、「これぐらいのレベル

以上の方でない」とみたいにやっていただけると、本当にありがたいなと思っています。

心のふれあい相談員がいる相談室には子どもたちが押し寄せているので、相当相談はかかっているのですけれども、それをちゃんと受けとめて、適確に指示というところまではなかなか出せない。ただ子どもも話を聞いてほしいということで、いろいろなところに行っているのです、こういう事業をもう少したくさんやっていただくと良いとは思っています。

もう1つ感じていることは、学校の中では出せない部分を出して言うときです。家のこととか、そういうことで一番かかわりが強いと思われるのが学童クラブと、練馬区全体に広げるという広場事業です。

広場のスタッフの方は、情報交換するといろいろな話をそのお母さんにしていたりして、そこでお母さんは「ちょっとこの子はもしかしたら家のほうで何かあるのではないかな」とみたいな感じとる方が多くて、学校に情報を入れていただけるのです。

学童の先生方も多分いろいろな研修等は受けられていると思うのですが、民間のスタッフの方が、どこまでその辺の話のところを受けとめてくださっているのかなということが気になる部分なので、もうちょっとその辺をてこ入れしていくと、子どももいろいろな相談をかけられていくのではないかなと思います。

保護者向けに、学校では研修会とか講演会とか開いて、次から次へとやっているわけなのですが、集まる人数がなかなか難しいというところはあります。

学校の対策としては、前日には必ず保護者向けにできるだけ参加してくださいという全校メールを発信する。手紙を子どもに渡しても、その手紙がどこかへいってしまうことも多いので、学校で何か連絡をするときにはメール配信が一番効くのかなということで、今それを利用しています。

あと、子どもの「死にたい」という気持ちになるまでの過程があるわけなので、それを予防するのに、学校でもいのちの授業とかそういうものをやってはいます。2年前にいのちの授業を弁護士さんからしていただいたのですが、その授業を聞いたのがきっかけで、ちょっと家のほうで虐待っぽい子どもが「相談をしてみよう」という気持ちに変わって、児童相談センターに行ったという件もありました。児童向けにちょっと気持ちが入るような研修会とかをやっていくのは、できるだけ5、6年生対象にはしていることが多いのですが、大事なのかなと思います。

すごく助かっているのは、警察のスクールサポーターさんという方が、非常に頻繁に学校に来てくれます。外の児童のトラブルというのがなかなか学校では掌握できないので、

その方がすごく頻繁に来てくれて、こんなことがあったと言っているいろいろな情報を得て、学校にも入れてくださるのは助かっています。

委員

海外の書籍では、いじめについて子どももゲートキーパーになりましょうとか、警察入りの証言とか具体的ながあるので、成功したのを参考にできれば。

委員 計画の中で一番難しいなと思っているのは、実は連携、ネットワークです。

連携が図れるかといったら多分そんなことはなくて、もちろんそういう素地があって、プラス実際のケースでどう連携するかというところが本当に大事になってくると思うので、このような具体的なものがふえていくのもいいのだろうなと思います。事業化されなくても、1つ1つ窓口センターという形をとっていくのがいいのではないかなと思いました。

自殺予防の手引きの作成というのを見てちょっと気になるのが、自殺率の高い人を早期に発見し、適切な相談機関へつなぐためのとなっています。私は発見して誰かにつなぐという、そういうふうに活動すると大概みんなつないで、つないで、つないで、つまりたらい回しになってしまうことが多いなとみています。そうではなくて、まずその人ができることをやる。

全般的にその窓口、窓口のできること、自分のやれる範疇を少しだけみんなオーバーしてやっていかないと、連携もつなぎもできないのではないかと考えています。そういうのってどう入れていくのがいいのだろうかと、そんなふうに思っています。

副会長

ポリシーというか、理解をするとか、つなぐということがいっぱいあるんですけど、「では理解をするというのは何なのだろうか」ということの中身に向けて、あまり書いていない気がしています。

自殺対策大綱等で「自殺は追い込まれた末の死である」ということが書かれているわけですが、どうしても、どうして人が追い込まれるのかということとの関係で、特にLGBTのこととか、虐待のこととか、ハイリスクというのは、人と違うということがあまり許容されない。

人と違うというのは、小中高校生くらいまではすごく嫌う傾向が強いと思います。人と違うということをみんな違うのだよとか、1人1人違う、同じ人生はないということ、大人になるとみんなだんだん分かってきて、深刻化しなくなっていくというか、生き方を学んでいくのだと思うのです。小中高校生くらいの人たちに対して、違っていいのだよと

いうことをポリシーとして、みんなに教えていくということが必要かと思っています。

最近、中学生の制服を男女ともズボンもスカートも選べますよとしている。人と同じでなくてもいいのですよという、生きづらさを1個1個取り除いてあげるみたいなことが大事なのではないかという気もしていて、そこら辺のポリシーというのを出してあげるといいのではないかなと思ったりしています。

会長

いろいろできるだけ反映をしていただけたらと思います。「はじめに」に基本的な理念が書かれていると思いますが、もうちょっと丁寧に書いてもいいのかもしれません。いきなり計画ではなくて、何のための計画だというのが入ってもいいのかなと思いました。

あと、委員からもあったと思うのですが、ワンストップの話は実際にこうした自殺対策を行うときに難しいと思うのですが、各種の縦割りの窓口ではなくて、総合相談みたいなものがあって、そこから行くのはいいなと思います。

そのためにも、庁内の関係者の方にはまずもって研修をしっかりといただいて、どの窓口から来ていただいても、生活困難の困窮の窓口であっても、高齢の介護の窓口であっても、ちゃんと自殺対策のことが頭に入っていて、つながっていくというところがとても大事だと思いますので、そこはぜひお願いできるといいなと思いました。

今の段階はまだ量も大事だと思いますし、量より質のお話がきょうたくさん出たような気がします。両方とも大事な時期なのだと思いますので、予算もあって難しいとは思いますが、順調に計画が進んでいくといいなと思っています。

子どもについては、やはり何か子どもたちのところは、全員にいのちの授業なのか何か手が打てるといいなと思いますし、保護者の方が必ず大多数が集まる時に、30分だけくっつけるみたいなことをやれるといいなと思いました。

いずれにしても、たくさんご意見いただきましたので、既に盛り込まれていることと、表現や記載の工夫ということが多かったと思います。この後、皆さんがおっしゃったようなことをぜひまた対応していただけるようにしていただけるとありがたいなと思います。

委員

39ページのところからの「生きる支援の関連施策」のところ、保健とか福祉とか子育てみたいなところで、いろいろな事業が書かれているのですが、ちょっと見にくく感じます。いろいろなことが網羅され過ぎていて、事業なのか、相談窓口なのか、講座なのか、見る側からすると、もうちょっと整理されているほうが見やすいと思います。

会長

カテゴライズされたほうがいいですね。場所なのか、事業なのかというぐらいには分かれたほうがいいですね。

表の順番をかえるのか、そういうカテゴライズをしてもうちょっとわかりやすくするか、色を変えるのか。たくさんご意見あった中で「見える化」がたくさん出てきましたので、わかりやすくということも可能な範囲で工夫をお願いできたらなと思います。

引き続きまして、関連計画ということで、区の大きな計画で「みどりの風吹くまちビジョン」というのが出ています。こちらについて、説明をお願いします。

事務局

資料2・3説明

会長

緑のほうの冊子をあけたところの見開きのこのカラフルな、こういうのはとてもわかりやすい気がします。自殺対策のところにもこういうようなわかりやすいものがあると、本当はいいかなと思います。

多分、皆さんじっくりお読みになると分かると思うのですが、アクションプランのほうも「アクションプラン」と書きながら、あまり具体的ではない書きぶりになっているかなと思います。この自殺対策とどの辺がどういうふうに整合性があるのかと、すごく読みとりにくくはなっているのかなと思うので、今後どう詰められていくのかなと、わかりやすくなっていくのかなと思っています。

事務局

ちょっと説明が足りなかったのですが、こちらはたしかに具体的な内容が入るということで、今後年次的にこの年度はどんなことを具体的にやっていきますということは、2月に公表する予定でして、それも素案という形でまた出ていきます。

事務局

今後またそういったものもお示しできるようになってきますので、こちらのアクションプランと具体的なほうはちょっと年度をまたいで、少しまたパブリックコメントなどもやった上で出るような予定になっているところです。

このビジョンと施策との関係ということなのですが、こちらは先ほど言われたように1つ1つと重点的に取り組むべき政策というのがあって、それについての本当にエッセンスみたいなことを書いているものです。

こちらの自殺の対策計画のほうは、そういったものをなるべく横ぐしで出して、全体として総合的に取り組みたいと書いています。

ただ、庁内の意識形成にも使いたいなというところもあって、少しでも自殺対策ということに目を向けてもらうということも目的にして、我々の意識改革に向けたものとしてもつくっているという点もあるということをご了承いただきたいと思います。

会長

いろいろ網羅されているのだと思うので、分かりやすくというところだけはちょっと工夫をいただけたらと思います。

会長

それでは、今後のスケジュールについて、ご説明をお願いいたします。

事務局

資料4 説明

会長

何かスケジュールのことで確認、質問はございますか。その他何かございますか。

委員

前回もお聞きしたとおりなのですが、来年度は違う人が委員へ推薦される予定です。

事務局

次年度も推薦を、連合協議会にお願いさせていただければと思います。

事務局

他の団体でもそのような手順が必要でしたら、教えていただければと思います。よろしくをお願いいたします。

会長

他によろしいでしょうか。事務局から最後に何かありましたらお願いします。

事務局

委員の皆様には本当にご多忙の中、お集まりいただきましてありがとうございました。なかなかこの問題が難しいなというのはご意見を伺っていて思いましたし、いろいろな形で皆さんは取り組んでいただいているということもよく分かりました。やはりいろいろな関係機関、区民の方、地域の団体等、本当の意味でネットワークとか連携とかというものを進めていくことによって、少しずつでも前に進めていきたいと思っています。

どうぞよろしくをお願いいたします。

会長

今後も練馬区の自殺支援に我々ができることは頑張りたいと思いますし、区全体が進む形に進んでいけばと思います。これで閉会となります。お忙しい中、皆さんありがとうございました。お疲れ様でした。

- - 了 - -